

# ニュース 玉 手 箱



## 好きなもの自由に描いて



**白** 陽会会員が指導するお絵描き教室が大石田保育園の4歳児・5歳児24名を対象に7月18日（水）に行われました。白陽会の石川要一さん（上ノ原）が見守るなか、子どもたちは自宅で飼っているペットや家族で行った海やプールの思い出、大好きな恐竜など思い思いのテーマで画用紙に自由に描きました。石川さんは色の塗り方で悩む子にアドバイスしたり、完成した絵をほめたりしてまわり、「描くのが好きな人はどんどん描いてほしい。苦手な人も絵に限らず自分の好きなことにどんどんチャレンジしてほしい。子ども県展で皆さんの作品が見られたらうれしい。」と話していました。

## 科学のふしぎ親子で体験

**町** 立図書館の夏休み企画「館長と科学あそび」が8月7日（火）に虹のプラザ小会議室などで行われ、小学生とその家族10名が科学実験や工作を楽しみました。

これは身近なものでできる実験で科学に親しみ、自由研究などにも活用してもらおうと池田史明館長が企画したもので、「つくる あそぶ ためす」をテーマに、ワイングラスを使ったグラスハーブやペットボトル空気砲などの実験と工作を楽しみました。子どもたちは科学の不思議を体験し、なぜそうなるのか互いに意見を出し合いながら実験を楽しんでいました。



## にぎりばつとでご当地グルメフェス

**大** 石田にぎにぎフェスティバルが、7月16日（月）にKOE no KURAで開催され、来場した約180人がそばを使った町の伝統食「にぎりばつと」や河北町の冷たい肉そば、山形市の芋煮カレーうどんを味わいました。

これは、にぎりばつとで地域おこしに取り組む大石田にぎりばつと部（高橋陽介部長）が創部5周年を記念して開催したもので、イベントでは指定された重さをねらってにぎりばつとの生地を握るゲームが行われたほか、高校生ボランティアサークル二十四孝 PART IIのメンバーが振り付けを考えた、にぎりばつとのテーマソングが披露され会場を盛り上げていました。



## 夏休み地域寺子屋

**各** 地区の公民館などで「夏休み地域寺子屋」が行われました。これは、地域の子どもたちが集まって夏休みの学習を教え合いながら進めてもらおうと各小学校で行われたもので、このうち北小学区では夏休みはじめての7月26日（木）に、7地区の公民館で約100名の児童が学習に取り組みました。

児童らは夏休みの宿題を持って公民館に集まり、お互いに分からないところを教えあったり、高学年の児童が下級生らに教えたりしながら夏休み中の宿題を進めていました。地域寺子屋は南小学区では7月30日（月）に、大小学区でも8月6日（月）に行われました。



## 震災被災者と心かよう交流会

**福** 祉ボランティアいこいの会のメンバーなど町民23人が7月19日（木）に東日本大震災の被災地宮城県南三陸町を訪れ、被災した老人ホームで被災者とふれ合いました。これは、町の地域おこし協力隊員遠藤舞子さんが南三陸町出身であることや、いこいの会の会員が毎年慰霊に訪れていることなどの縁から実現したもので、参加者は大きな被害を受けた町の防災対策庁舎前で祈りをささげました。その後、特別養護老人ホームを訪問し、被災者の体験を聞いたり、会員らが花笠踊りなどを披露したりして入所者らと心かよう交流を楽しみました。



## 地域の特産そばの種まき体験

**そ** ばの種まき体験が8月3日（金）に大石田南小学校で行われ、3・4年生児童16名が作業を体験しました。これは横山地域農地・水・環境保全組織の協力で毎年行われているもので、はじめに子どもたちは指導者の井上邦義さんと小内英徳さんから種のまきの方を教わり、玄関前で練習を行ったあと、学校前の畑で種まきを体験しました。畑に入ると児童らは、ゆっくり歩きながら均等に種をまいていきました。また、作業のあとは、この日まいた町の固有品種「来迎寺在来」の由来について学習しました。学校では秋にはそばの刈取りとそば打ち体験を行う予定です。

